

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### B. 円滑な学位授与の促進

#### ①複数教員による多面的な指導体制の整備

##### ●会津大学コンピュータ理工学研究科

##### 「創造工房とアリーナに基づく革新的 IT 教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

平成 19 年 9 月に新専攻である「情報技術・プロジェクトマネジメント専攻」を設立したが、現在まで当専攻に在籍した(している)学生は 13 名にとどまっている。入学時オリエンテーションでの説明、広報媒体による宣伝、教員への働きかけを行ったが、なかなかプログラムが浸透せず、結果的に新専攻への入学者が増えなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

新専攻におけるプログラムの実施・運用が段階的に整備されていったこともあり、プログラムへ積極的に参加する学生や担当教員が少なかったことが要因と思われる。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

プログラムについての周知や大学院進学者増加に向けて、大学院進学相談窓口を設置し、メールマガジンの配信、大学院進学についてのアンケート等を行ったが、根本的な学生の進学意識向上へは必ずしもつながらなかった。PBL 型のプログラムに対して学生が積極的に参加できるよう、きめ細やかな指導体制を整えるためには、より一層の教員間の連携・協力体制が必要と思われる。